

視点を変えて可能性を広げるITの新活用術(第5回)

介護・福祉に寄るIT化の波

2021.10.15



日本の65歳以上は3640万人(2021年9月時点)を数え、人口の約29%が高齢者となり、超高齢社会が進んでいる。高齢者の社会生活や介護・医療などを支えるのが老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅、ケアハウス、訪問・通所サービスといった介護事業所だ。

利用者の増加とともにケア業務を担う人材不足も深刻化。また、高齢者のワクチン接種が進むとはいえ、新型コロナウイルスの感染防止対策が加わり、ケア業務の負担が増しているのが実情だ。

介護業務や働き方改革の手助けとなるIT

現在の介護人材を有効活用しながら、業務の効率化、生産性の向上、働き方改革といった課題に対応する上で、大きな力になるのがITだ。介護サービスは人手に頼る労働集約型の業務のため、IT化が遅れていたのは否めない。

だが、ITを活用して業務の効率化や介護スタッフの働き方改革に取り組む事業者もある。訪問・通所介護サービスを提供するある事業者は、スタッフに共用のタブレットを配布。スタッフへの連絡事項など情報共有にグループウェアを活用する。また、訪問介護ではスマホで申し送りや連絡事項を伝える。スタッフは利用者宅に直行直帰しやすくなった。スタッフの柔軟な働き方をITで支援している。

タブレットで情報共有すれば直行直帰もしやすい



【現場】

申し送りや連絡事項



【管理部門】

リアルタイムに確認

患者・利用者のバイタルデータ管理にITを活用… 続きを読む